

未来のために、キグナスができること。

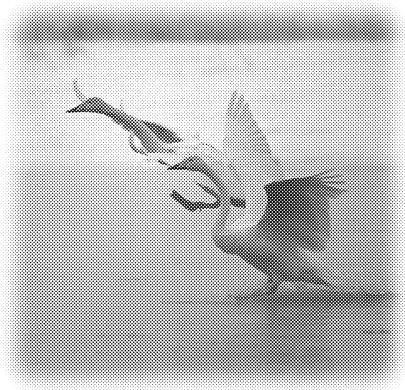
「地球は祖先から譲り受けたものではなく、子孫から借り受けたものである」という言葉があります。

私たちは、現在恩恵を受けている限りあるエネルギー資源を次の世代のために効率よく、有効に使っていかねばなりません。

キグナスは、美しい地球を未来へとバトンタッチするために、よりクリーンな石油製品の提供に努めるとともに、地域社会の環境に配慮した企業活動を展開しています。

同時に、社会の一員として、社会や暮らしを支えるために石油の安定供給を続けてまいります。

キグナスの一つひとつの足跡は小さくても、大きな未来を支える確かな一歩につながるはず――。



キグナスはそう信じて、

私たちは、常に高い経営効率のもと、環境に優しいクリーンなエネルギーの供給により、お客さまに支持・信頼され、満足されるキグナスブランドを確立し、社会に貢献してまいります。



高度化法、産業競争力強化法50条適用

石油業界再編 待ったなし



コスモ千葉と統合する東燃ゼネラル子会社の極東石油工業

製油所連携・統合進む

石化シフトで生き残りも

石油業界各社は14年度に入り、「エネルギー供給構造高度化法」に則して原油処理能力を過去10年のピークだった08年4月比で約2割削減した。慢性的な供給過剰状態が一時的に解消され、市況はやや改善されたが、石油製品の需要は構造的に年率1.2%落ちであり、このままではいずれ深刻な市況悪化に見舞われかねない。こうしたことから経済産業省では、いわゆる「ポスト高度化法」で新たな効率化目標を各社に課す予定。加えて、「産業競争力強化法50条」を適用し、近接する別会社の製油所との連携・統合や、企業同士の合併・統合など業界再編を推し進める方針を示した。

経済産業省の新たな方針を受け、コスモ石油と東燃



国内最高の分解装置装備率と石化シフトで単独での生き残りを図る太陽石油四国事業所

ゼネラル石油は千葉県市原市で近接する両社の製油所を15年1月に統合することを発表した。合同会社を設立し、原油調達や生産計画を一本化し、共同物流や出荷設備の共有化などを進める。16年度には両製油所を海底パイプラインでつなぎ、原料や製品を相互融通できるようにして生産設備を一元化する。その時点で大規模な合理化策を決める方針だ。

両製油所の周辺にはほかに出光興産の千葉製油所（千葉県市原市）や富士石油の袖ヶ浦製油所（同袖ヶ浦市）も近接する。さらに大手総合化学メーカーの工場もあり、コンビナート連携のさらなる深化の可能性もある。対岸の川崎市川崎区には東燃ゼネラルの川崎工場と昭和シェル石油グループの東亜石油京浜製油所、JX日鉱日石エネルギーの化学工場などが集積している。さらに、三重県四日市市には昭和シェルとコスモ石油の堺市西区ではコスモと東燃ゼネの製油所がそれぞれ近接している。経産省では年内に3年先までの合理化計画を提出するよう各社に要請する意向。これにより、各地区で企業間の垣根を越えた連携や統合が起きそうだ。

他方、製油所単独で競争力を強化しようという動きも加速している。一つは石油化学シフト。自動車車の低炭素化が年々進む。経産省の最新の調査

によると、ガソリン需要は13年度からの5年間で9.5%も減少する。このため、ガソリンからより付加価値の高いキシレンやベンゼンなど芳香族を抜き出すプラントの増設に動いている。

太陽石油は唯一の製油所である四国事業所（愛媛県今治市）で、早ければ10月にもミックスシンレンを生産する不均化装置が稼働する。これにより、ミックスキシレンの年産能力は40万トンから70万トンに増える。同事業所は高度化法で数値を引き上げるよう義務化された重質油分解装置の装備率が24.6%と、国内最高水準を誇る。製油所としてはすでに高い競争力を実現しているが、石化シフトも進め、単独での生き残りを志向する。

昭和シェルも同じく四日市製油所で不均化装置の新設を決めた。投資額は100億円弱。16年後半に稼働する予定で、ミックスキシレンの年産能力は50万トンから70万トンに増える。東燃ゼネも13年度からの5年で100億円強を投資し、芳香族の生産能力を最大2倍に引き上げる。

発電事業を強化

安定操業で効率化図る



各社の製油所や化学プラントが集積する川崎コンビナート

電力自由化を見越し、発電事業を強化する動きも見られる。JXエネは、鹿島製油所（茨城県神栖市）に溶剤脱れき（SDA）装置と、それを活用した発電設備を建設する。SDA装置は重質油留分からより高付加価値の軽質油留分を製造するもの。その工程で発生する残さを燃料とする発電源は自らが参画するカナダのガス事業や豪州の炭

電（同）に新設する。総投資額は250億円。15年度中の完成を目指す。

出光は高度化法対応のために生産を停止した旧徳山製油所（山口県周南市）跡地を原油に加えて、石炭や液化天然ガス、液化石油ガスなど複数の発電用燃料の受入基地にする構想を温めている。資源は自らが参画するカナダのガス事業や豪州の炭

鉱から調達する。周南コンビナートとの連携をさらに深めると同時に、そのパートナーと共同で発電事業への参入にも意欲をみせている。

精製専門の富士石油は唯一の袖ヶ浦製油所において、安定操業・高稼働による競争力確保に注力する。単一製油所は、その稼働率が会社の収益に直結してしまつたため、同時に、装置の温度や圧力、流量を自動的に調整し、最適運転する高度制御システムを計画的に導入中。これにより、製油所のエネルギー効率を高めている。13年度はナフサ水素化脱硫装置を導入し、二酸化炭素排出量換算で年間4000トンの削減効果を得た。

エネルギー新時代

例えば、速くへ行きたいという願いに、エネルギーは応えてきた。

翔べ。今を超えて、明日へ。

乗り越えることは、人に喜びをもたらす。何かを成し遂げれば、誰かの笑顔が生まれる。エネルギーにもそれができる。やるべきことは、まだまだたくさん目の前にある。

The Energy Challenge.

ずっと走ろう。シェルと走ろう。

昭和シェル石油

あらゆる産業の配管にOSK式伸縮管継手！

株式会社 株式会社 株式会社

製作営業品目
一般配管用伸縮管継手
熱交換器用伸縮管継手
埋設配管用伸縮管継手
振動吸収用伸縮管継手
原子力用伸縮管継手
各種プレキシブルチューブ
電動式チューブクリナー

創業1925年

本社 〒578-0977 大阪府池田市徳庵町3番 ☎06(6745)5678
営業本部 〒630-0142 奈良県生駒市北田原町2360番 ☎0743(71)3811
東京事業所 〒136-0071 東京都江東区亀戸2丁目39-5 ☎03(3685)0311
中四国営業所 〒713-8103 広島市玉島乙島字新湊8255 ☎086(525)6711
北海道営業所 〒004-0054 札幌市東区南14条3丁目207-1 ☎011(807)5577
奈良工場 〒630-0142 奈良県生駒市北田原町2360番 ☎0743(78)0581
岡山臨海工場 〒713-8103 岡山県倉敷市玉島乙島(水島港玉島E地区) ☎086(525)6511

エネルギーの安定供給が私たちの使命です

環境にやさしい良質な石油製品などのエネルギー資源を
安全かつ安定的に生産・供給します。



袖ヶ浦製油所全景

FOC 富士石油株式会社

代表取締役社長 柴生田 敦夫

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲・パークサイドビル